

# 接地圧係数 $\alpha$ を求めるプログラム

益永八尋

## I. 入出力画面

### 接地圧係数 $\alpha$ を求めるプログラム

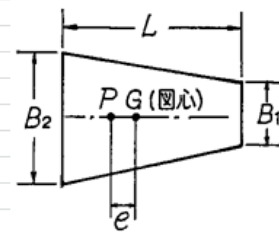
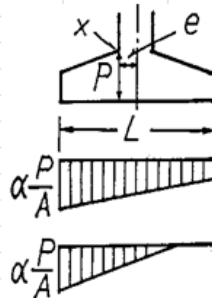
出典: 土地改良事業計画設計基準 設計 ポンプ場 昭和57年12月 農林水産省 P.211~212

接地圧係数  $\alpha$  は長方形基礎と円形基礎の場合は図-5.2.10のグラフから読み取ったから  $\alpha$  と偏心率から近似式を作成することも可能である。偏心率が大きくなった場合にはグラフから読み取った  $\alpha$  と近似式から得た  $\alpha$  では、近似式から得た  $\alpha$  のほうが誤差が大きくなる。このため、近似式の採用は行わず、補間法を採用する。

#### 接地圧係数 $\alpha$ の計算

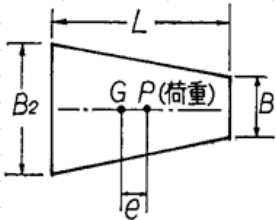
データ入力

基礎形状	台形基礎A
L	2.000 (m)
B1	2.000 (m)
B2	20.000 (m)
偏心量 e	0.400 (m)
接地圧係数 $\alpha$	2.440



台形基礎A

長方形基礎・円形基礎



台形基礎B

- 注)1. 台形基礎Aは荷重作用位置が図心の左側(長辺(B2))にある場合  
 注)2. 台形基礎Bは荷重作用位置が図心の右側(短辺(B1))にある場合

II. 接地圧係数  $\alpha$  を求めるグラフ

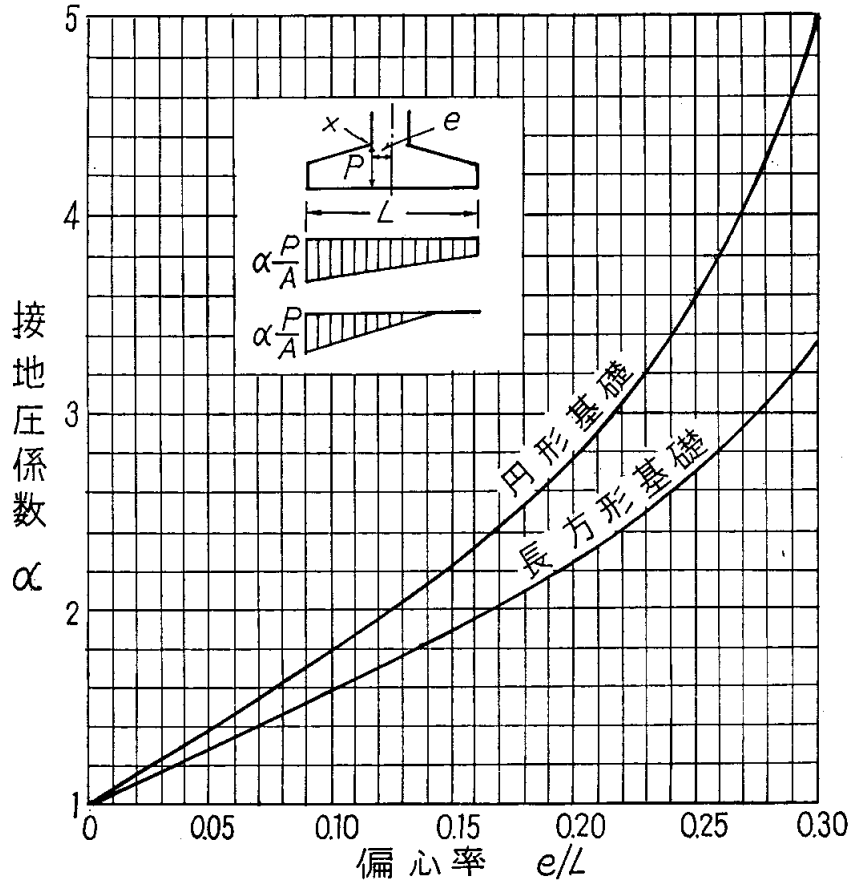


図-5.2.10 長方形基礎と円形基礎の接地圧係数と偏心率の関係

